

台北日本人学校 校長室便り

家庭数配布

令和2年12月1日
台北日本人学校長 近藤裕敏

○11月の台北日本人学校

あっという間の11月でした。例年の行事が戻ってくると時間の経過が早く感じます。

21日のオープンスクールには足を運んでいただきありがとうございました。やはり、保護者の皆様が見てくださる時の子供たちの頑張りは格別ですね。もちろん成長の度合いによって、素直に喜んだり恥ずかしがったりと、子供たちの表現は変わってきますが、親が自分を見てくれている、自分のためだけに時間を使ってくれているということを喜ばない子供はいません。そういえば私の中学生時代は、参観日のたびに（体育祭や文化祭なども同じでしたが）「どこの親も来ないから、来たらあかん」と言っていて、親を学校に来させませんでした。立場が変わって親になると、わが子がなんと行おうとも行ってやると思うのですが、中学生は複雑です。でも皆さんが懇談会のように来られると「誰も来ない」とは言えなくなりますね。参観大歓迎の小学部から微妙な思春期の中学部までですが、学校ではどちらも可愛いですよ。



オープンスクールではPC一人一台の現状を見ていただきたいと思っていました。残念ながらまだ配付できなかった学年もありましたが、27日までには全学年（小4から中3はクロームブック、小3はipad、小1・2年は学年で使用）に配置できました。職員室に借りに行かなくても、必要なときにはいつでもPCを使用できるようになりました。PCがなければ学習できないわけではありませんが、PCを使うことでより効果的な学習ができるように、教員も研修を重ねています。



18日に毎年恒例「心魂プロジェクト」の皆さんによるパフォーマンスがありました。



今回はコロナの関係で横浜からのライブオンライン配信でした。目の前で圧倒的な迫力が魅力ですから、オンラインではどうなるのかと少々不安でしたが、予想以上の臨場感と小・中ともに子供たちとの一体感を創り出されました。特に小6と中3の児童生徒がパフォーマンスに加わることで、会場は一層盛り上がりました。楽しく素敵な1時間半を演出して下さった「心魂プロジェクト」に感謝です。来年は台北でお待ちしています。



○11月のひとコマより

先日、台北市青田街で行われた社団法人台湾故郷文史協会による台北市制100周年を記念した台日友好祝賀会に参加しました。旧昭和町に残る修復された日本家屋でのイベントでした。台湾には日本統治時代の公共建築物で総統府を始め現在も現役使用されているものが沢山あります。また台北には1941年に日本人が1000人以上住む居住区が37カ所あり特色のある日本人街を形成していたようです。戦後に日本人が去ってから、これらの家屋は国が接収し売却や機関の宿舎として使用されました。戦後75年経過する中で、保存状態が良好で現在も居住者がいる家屋もありますが、大部分は建て替えられています。日本統治時代にこの地で生まれ、戦後台湾をあとにした「湾生」の皆さんの歴史や思いが残る家屋を、取り壊さず、その文化的価値を市民共有の遺産とするために、この台湾故郷文史協会の方々も古跡や文化遺産の登録に尽力されておられます。日本家屋を保護し、日本と台湾が一緒に作り上げてきた歴史を掘り下げていくこと、そして日本と台湾の友好をさらに深めようとされていることにとても感銘を受けました。そして日本と台湾が協力し合い、これからも絆を深めていくことは、天母の地でまた新しい歴史を刻もうとしている台北日本人学校の大きな役割でもあると強く感じました。

